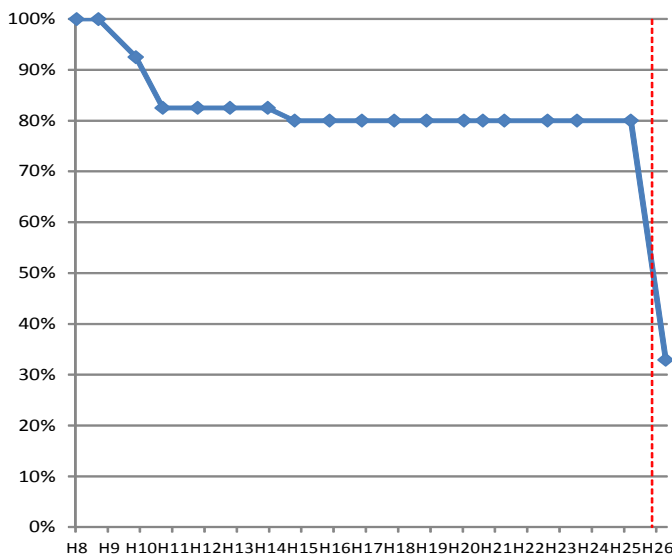


樹種名	スダジイ (別名: イタジイ)	
科 目	ブナ科	
学 名	<i>Castanopsis sieboldii</i>	
分 布	福島県および新潟県以西・以南から与那国島までの比較的温暖な地域に分布する。	
樹木特性	暖地性照葉樹林を代表する樹種のひとつ。半陰樹であるため、適地では優占種として極相林の林冠部を形成する。遷移系列の一例を挙げると、イタドリ群落→クロマツ林→アラカシ林→タブノキ林→スダジイ林(鹿児島県桜島: Tagawa, 1964)が知られている。	
用 途	暴風・防火樹、建築・器具・船舶材、しいたけ原木として利用	
植栽本数/面積 (植栽密度)	149 本 / 0.03ha (5,000 本 / ha)	
特 徴	<p>【樹形】</p> <p>スダジイとは、ブナ科シイ属の常緑広葉樹であり、別名はイタジイやナガジイという。通常では、シイという場合には本種を指す。常緑高木で、幹周が 10m に達するにまで成長したのも確認されている。樹高 15~20m、直径 1~1.5m に達する。</p> <p>幹は黒褐色で、直立し、成長すると樹皮に縦の切れ目が入ることが特徴である。</p> <p>葉は厚くクチクラ層が発達する。長さは 5~10cm 程度の広楕円形で互生し、先端は細く尖る。葉縁の上半分に鋭い鋸歯があるが、個体によって鋸歯が鈍く目立たない場合や、鋸歯が認められない場合もある。</p> <p>開花時期は初夏(5~6月頃)。葉腋から長さ 6~10cm 程度の穂状花序に黄色の小型の花を密につける虫媒花である。花が咲いた翌年の秋(10月から11月頃)に長さ 1~1.5cm 程度の堅果(どんぐり)が熟す。また材が硬く、耐潮性が強く、丈夫であるため巨木になりやすい。</p>	  
試験地での様子	ポット苗を植栽し、植栽直後にコウモリガやカミキリムシ類による穿孔被害が発生した。成長の早いものはほとんどが虫害を受けており、幹の根元がこぶ状になったものも多く見られた。植栽から 18 年が経過した現在の平均樹高は 11m 程度まで順調に生育している。また、現存率は 33% となっている。	
被害	植栽後にコウモリガやカミキリムシ類による穿孔被害が発生した。 (延べ駆除本数 コウモリガ 46 本、カミキリムシ類 59 本)	

スタジイ 現存率



【現存率】

植栽後からコウモリガやカミキリムシ類による穿孔被害が発生している。

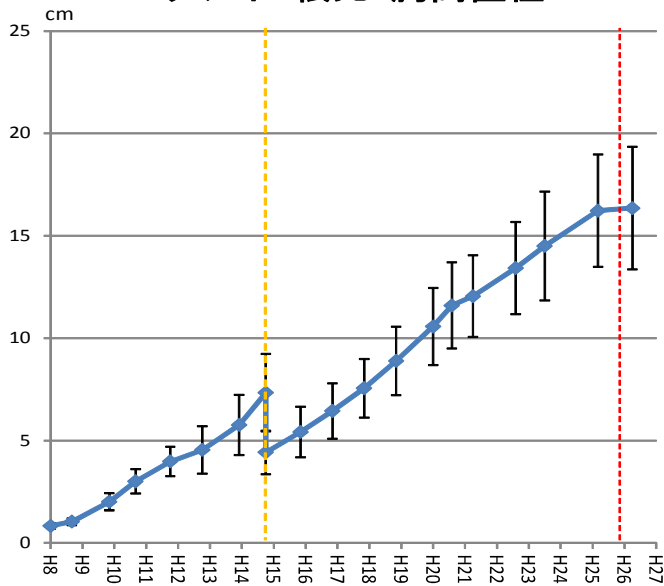
平成 15 年度以降の枯死は見られない。

林内の照度調整を図るため、平成 16 年、17 年、18 年、19 年、20 年、21 年、24 年度にわたり 7 回の本数調整伐を実施した。

平成 26 年度に毎木調査を実施した結果、現存率は 32.9%であった。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

スタジイ 根元・胸高直径



【根元・胸高直径】

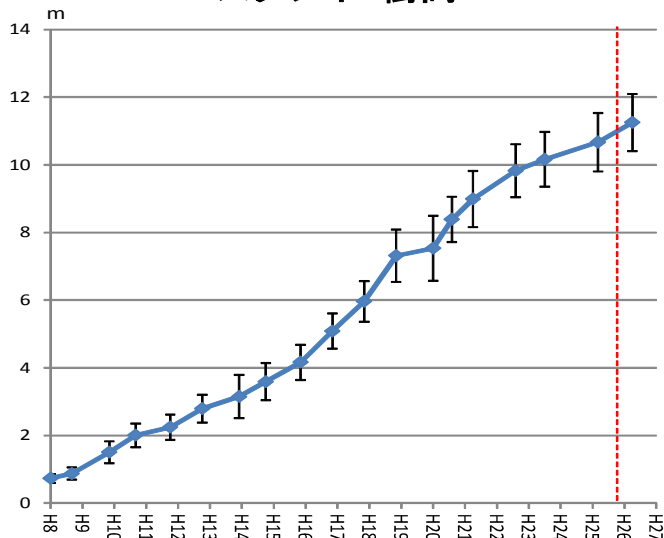
順調に成長している。

平成 26 年度に毎木調査を実施した結果、平均胸高直径は 16.35 cmであった。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

※ オレンジ線は、根元から胸高へと測定箇所変更のため、データの連続性はない。

スタジイ 樹高



【樹高】

順調に成長している。

平成 26 年度に毎木調査を実施した結果、平均樹高は 11.25m であった。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

